

三井物産のデジタル戦略・施策

デジタル基盤の最適化と、データ/AIによるグループ横断の価値創出を両輪で推進しています。

デジタル基盤の最適化

2024年3月期に策定したデジタル・グランドデザインに基づき、標準化と全体最適を着実に進めています。2026年3月期には、稟議システム及び投資先管理システムの社内利用を開始し、その他全社システムの構築も進めています。これらを通じて、経営判断の高度化と業務生産性の向上を図ります。



サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティを重要な経営課題と位置づけ、「三井物産グループサイバーセキュリティ原則」を制定し、情報戦略委員会・経営会議・取締役会による監督のもと推進しています。重要関係会社を対象に準拠状況をモニタリングし、各社による自己点検及び改善計画・代替策・リスク受容方針の整理を通じて、2026年3月末時点で準拠率は100%に到達しました。対策面では、国際基準(NIST CSF)に準拠したセキュリティ基盤を当社及び海外現地法人に展開済みで、予防・検知・啓発の各面で必要な対策を実施しています。

今後は、AIを悪用した攻撃の高度化・高速化に備え、AIを活用した監視高度化や侵入前提の多層防御の強化、復旧の迅速化等、継続的に対策レベルを引き上げていきます。



日本IT団体連盟が実施した「サイバーインデックス企業調査2025」において、「優れた取組姿勢及び情報開示が確認できた企業」として2年連続で一つ星認定されました

DDM (Data Driven Management)

三井物産グループの幅広い事業領域から得られる多様なデータを共通基盤上で連携し、AI・分析技術を活用したデータドリブン経営 (DDM)を推進しています。個別事業における意思決定や業務高度化に加え、事業本部・地域・関係会社の枠を超えてデータや知見を組み合わせることで、単独では見出せなかった事業機会の発見や非線形のCombinatory Value創出につなげています。

- 経営判断の高度化**
データとAIに基づく迅速かつ精度の高い意思決定を支援
- 業務生産性の向上**
データ活用による業務プロセスの最適化と効率化を推進
- 非線形のCombinatory Valueの創出**
単独では見出せなかった事業機会や新たな価値を創出

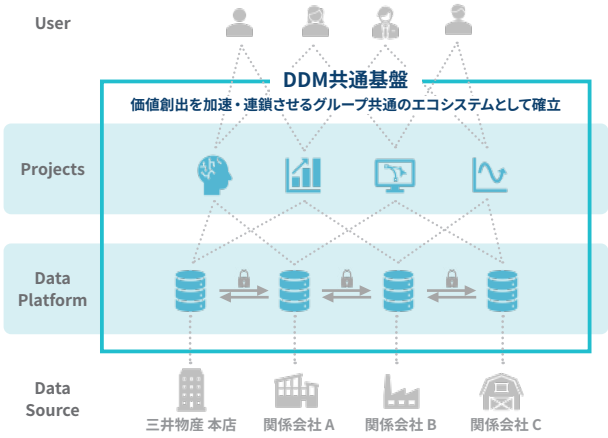
三井物産のDDM紹介動画



200+
のDDM案件組成

2026年6月末時点

グループ共通のDDM基盤を通じて、グローバル・グループの広範なデータへのアクセスを可能とするとともに、AI・分析プロジェクトを基盤上に集約しています。ノウハウの蓄積・型化・横展開を進めることで、グループ全体でのデータ活用と価値創出を支えています。



事業本部・地域・関係会社の枠を超えたデータと知見の融合により、Combinatory Valueを創出

Gate 3 持続的成長

- 34 CSOメッセージ
- 35 マテリアリティ
- 36 サステナビリティ経営における統合的アプローチ
- 37 気候変動
- 38 自然資本
- 39 ビジネスと人権・サプライチェーン
- 40 CDIOメッセージ
- 41 三井物産のデジタル戦略・施策
- 42 CHROメッセージ
- 43 人材戦略

- Introduction
- Gate 1
- 価値創造の原点
- Gate 2
- 財務・ポートフォリオ戦略
- Gate 3
- 持続的成長
- Gate 4
- 経営基盤
- Gate 5
- Data